



国内外のメディアが注目

3市町で構成する鉄の道文化圏推進協議会では、日本遺産の認定を契機に来訪者の増加を目指しています。パンフレットやウェブサイトの制作、首都圏でのイベント開催などを通じて、地域の魅力を国内外に発信していきます。

日本遺産認定に加え、今後、たたらが注目を集める機会が次々とやってきます。平成29年5月には映画「たたら侍」が公開、今春にはJR西日本「瑞風」が運行され菅谷たたらが訪問地の一つになっています。また、平成30年にはJR西へ

海外でも注目されています。認定後は、国内だけでなく海外メディアからの取材も増えています。たたらを通じて、圏域の独自の文化や風土などに興味をもってもらえるよう引き続き取り組んでいきます。

「火の色 里の色 人つなぐ」

鉄の道文化圏では、日本遺産認定のキャッチコピーとシンボルマークを決定



日本遺産「出雲国たたら風土記」鉄づくり千年が生んだ物語」連載6 日本遺産で注目される「たたら」

日本のディスプレインペーン（誘客キャンペーン）が展開される予定で、相乗効果が期待されています。

一方、日本古来の「たたら」は



▲日本遺産認定後は、多くの人がたたらに興味を持つようになりました。

しました。たたら「火の色」と、千年以上も前からたたらによって育まれてきた風土（「里の音」と表現）が、人と自然、人と人をつなぎ、未来へつないでいくという思いを意図したものです。シンボルマークは神代から続く鉄づくりを刀で表現し、たたら製鉄の炎とたたらによって育まれた棚田を組み合わせたものです。たたらに関する出前講座を実施します。詳しくは和鋼博物館（電話23・2500）へお問い合わせください。

安来市加納美術館だより 電話36-0880



企画展「洋画家 山崎修二の世界」

安来市出身画家没後初の回顧展 3月18日～5月22日

加納美術館では、3月18日（土）から企画展「洋画家山崎修二の世界」が始まります。これは、山陰の風土と人をこよなく愛し、多くの人材を育てた洋画家山崎修二（1910～2001）の没後初の回顧展です。

一生を一介の画学生として真剣に生きたい」という決意を貫きました。

安来市上吉田町出身の山崎は、若い頃にセザンヌやマチスら後期印象派に憧れました。加納莞菴との出会いを通して画家になる決心を固め、その後斎藤与里に師事します。

本展では、フランスの後期印象派の絵画が島根に根を下ろして独自の美術を創り出した過程を一人の画家の生涯を通してたどりまふ。ふるさと安来の思い出を描いた未公開作品も多数出品されます。

「絵画は本格的でなくてはならない」という斎藤の教えを胸に常に修養を心がけ、「自分は

3月26日（日）午後1時30分からは当館館長の講演「洋画家山崎修二の世界―後期印象派からの美の系譜―」を予定（無料・予約不要）。詳しくは美術館にお問い合わせください。



▲山崎修二「順子八歳像」（昭和20～22年）島根県立美術館蔵

企画展「洋画家山崎修二の世界」

《会期》3月18日（土）～5月22日（月）まで。毎週火曜日は休館。《開館時間》9時から16時30分。ただし入館は16時まで。《入館料》一般1000円、学生（高校生以上）500円、団体（20人以上）800円。